

NPO 法人 タンザニア眼科支援チーム

理事長 山崎 俊

Japan Tanzania Eye Medical Support Team

(愛知県、山崎眼科院長)

私たち「タンザニア眼科支援チーム」は、2007年よりアフリカ、タンザニア連合共和国の国立ムヒンビリ大学病院で眼科支援活動を行っております。

活動開始の契機は、徳島県藤田眼科の藤田善史先生を中心として行われている「ミャンマー眼科支援活動」に参加していた山崎が、2006年に当時の駐日タンザニア大使だったムタンゴ氏と面会し、「同じような活動がタンザニアでもできないか?」と相談を受けたことです。

タンザニアは、アフリカ東部、赤道の南に位置し、面積約95万km²(日本の約2.5倍)、人口約5600万人(日本の約半分)、アフリカ最高峰のキリマンジャロ山とそのふもとで栽培されるコーヒー、そしてライオン、ゾウ、シマウマなどの野生動物が有名です。眼科医はわずか30人程度、眼科医療は資金不足などの理由で大学病院でも十分な治療が行えない状況で、適切な支援が必要と考えられます。

チームのメンバーは、岐阜県ほりお眼科院長の堀尾直市先生、愛知県小嶋病院眼科の小嶋義久先生らを中心とした日本人眼科医と眼科医療関係者で構成されています。現地では、タンザニア在住で日本大使館に勤務している横江美貴看護師が、我々の活動をコーディネートしてくれています。

さらには、タンザニア保健省、駐日タンザニア大使館、在タンザニア日本大使館、そして2005年の愛知県万博でフレンドシップ提携を交わした愛知県小牧市と、小牧ライオンズクラブをはじめとする多くの皆様にご協力をいただいております。

具体的な活動内容は以下の3項目で、ミャンマー眼科支援活動をお手本にしています。

- 1) 年1回、1週間程度現地を訪問して、超音波白内障手術の技術指導を中心とした支援活動を行う。
- 2) 現地眼科医らと連絡を取りながら、不足している機器、薬剤などをできる範囲で提供し、これらの管理指導を行う。
- 3) タンザニア眼科医を日本に招いて研修をしてもらう。

活動回数を重ねるごとに現地眼科関係者との信頼関係が深くなることを実感しますが、同時に生活や医療の環境が異なる者たちが相互理解をする難しさも感じています。

私たちはタンザニアの眼科関係者との交流を通じて、現地の眼科医療の発展を支援するとともに、この経験を通して我々自身が成長していくことも重要であると考えております。



ムヒンビリ大学病院手術室にて



ムヒンビリ大学での眼科関係者への講義